

「羽月西小学校の八代棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

伊佐市立羽月西小学校

2 学年・人数

小学3年生から6年生 14名

3 日時・場所

(1) 発表の日時・場所：羽月西小学校校庭（11月4日）

(2) 練習の日時・場所：羽月西小学校及び八代公民館（10月～11月4日）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

八代棒踊り（やしとぼうおどり）

(2) 由来

戦前から青年団等を中心に伝承されてきた。一時途絶えたものの、平成元年頃、八代青壮年部の復活させたいとの願いから有志の努力で復活させ、現在も青壮年部を中心に伝承されている。

平成22年度から本校PTAと連携し、校区文化祭でアトラクションとして児童による棒踊りを披露した。これがきっかけとなり伝承活動に取り組むようになった。

(3) 構成等

上げ唄を2人で唄い、三尺棒を持った6人が1組となり、参加人数によって2組・3組・4組となって踊る。棒を打ち合うことで、五穀豊穰の感謝の気持ちを捧げ、棒を打ち合う音で厄を払い、無病息災を祈っていると伝えられる。

上げ唄が7種類あり、同じ動きを繰り返す。着物姿で、頭は豆絞りで色分けし、白、赤、黄を縦一列に分け、背に飾り（チロロ）をつけることになっている。

5 保存会や地域との連携の具体

学校の教育活動として伝承活動を位置付け、「総合的な学習の時間」で練習を行っている。

10年程前から羽月西校区コミュニティ協議会の協力をいただき、各自治会が交代で指導をしていた。しかし、指導できる自治会員が少なくなり、次第に八代棒踊り保存会が中心となって棒踊りの保存に努めてきた。

今では、学校・PTA・八代棒踊り保存会が一丸となり、棒踊りの伝承活動を継続している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校・PTA・八代棒踊り保存会と連携協力しながら、棒踊りを継続して伝承していける体制を整えた。

また、ふるさとの郷土芸能を守り育てていくという自覚を促すねらいから、八代棒踊り保存会が中心となって伝承していく体制をこれからも維持していくことを確認した。

さらに、校区の小・中学生全員が参加できるように工夫するとともに、中学生が小学生に指導できる体制を整える必要もある。

7 取組の様子



【木刀での練習の様子】



【本番用の棒を使っでの練習の様子】



【発表の様子（平成30年度11月4日小学校・校区合同文化祭）】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

子どもたちは、小学3年生から棒踊りが踊れることが待ち遠しく思っていたらしく、練習にまじめに取り組んでいる。

棒踊りに対する保護者の理解もあり、大変協力的である。ふるさとの郷土芸能である棒踊りをとおして、生まれ育っている地域への誇りや愛着を子どもたちに育みたいという保護者の願いがあるようである。

練習は、棒踊り保存会の方が中心にされるが、担当教諭は自主的に踊りを覚え、指導の協力を行っている。踊り子が欠けるときは、教諭が子どもたちと一緒に踊っている。参加した教諭は、勇壮な棒踊りに参加することで、地域の歴史や伝統を肌で感じ、より羽月西校区の理解が深まったと話している。